

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>【プロジェクト目標】ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する</p> <p>プロジェクト目標の達成度を測る6つの指標のうち、4つ(第4回妊婦健診受診率、妊婦鉄剤受給率、BCG接種率、麻疹/風疹接種率の増加)は事業対象の全区で達成することができた。残り2つの指標(第1回妊婦健診受診率、三種混合ワクチン接種率の増加)についても、目標値には若干達しなかった区があるものの、1年次申請時に設定した強化区では数値の改善が確認されたこともあり、プロジェクト目標は概ね達成できたと考える(第1回妊婦健診受診率強化区/ゴバルディヤ区:58%→87%、三種混合ワクチン接種率強化区/ガンガパラスプル区:64%→68%)。</p> <p>また、本事業の活動は、母子の基礎保健医療サービスに関する指標の低い地域への重点的な配慮をもとに実施されたもので、同サービスへのアクセスが改善された結果、ガダワ地区内における母子健康格差の是正という上位目標の達成にも貢献することができた。</p> <hr/> <p>【3年次事業達成目標】プロジェクト目標と同じ</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>0. 事業管理に係る活動</p> <p><u>0-1. 各レベル行政機関との調整</u> 社会福祉協議会(SWC: Social Welfare Council)との事業合意書(PA: Project Agreement)で定められている中央レベル諮問委員会及び郡レベル諮問委員会との調整会議を1回ずつ実施した(いずれも2022年3月)。また、州政府高官、郡レベル行政職員による事業モニタリングを2回(2021年9月、2022年2月)実施した。 地区/区レベルでは、計画していた2回の調整会議(2021年8月、2022年3月)の他、地区長や保健課の担当官を始め、各区長、保健施設責任者らと定期的に協議を行い、良好な協力・連携関係のもとで事業を実施した。 この他、SWCにより実施が義務付けられている社会監査は2022年3月に実施し、対象地域住民と共に事業による社会的なインパクトを評価した。なお、SWCによる事業終了時評価は、先方の都合により事業期間内には行われなかったが、2022年8月～9月に実施される予定である。</p> <p><u>0-2. 専門家・本部職員の派遣</u> 新型コロナウイルス感染症予防対策による国内外への移動制限を受け、本部職員の短期派遣は実施できなかった。その代替として、事業スタッフの四半期会合や、上述の地区レベル調整会議などに本部職員がオンラインで参加し、進捗状況と課題の確認、事業成果を高めるための提言等を行った。</p> <p><u>0-3. ベースライン・エンドライン調査</u> エンドライン調査を2022年2月から3月にかけて実施した。その結果、事業対象地域において、住民の公的保健医療施設への所要時間の軽減と同サービスへの満足度向上、また、母子保健知識に関する理解の進展など、事業目標の達成につながる成果の発現が確認された。</p> <p>1. 公的一次保健医療サービスの強化</p> <p><u>1-1. ヘルスポストへの資機材供与</u> 対象全4か所のヘルスポストを対象とするモニタリングを、計4回(2021年3月、4月、7月、12月)にわたり、ヘルスポスト運営管理委員会と共に実施した。その結果、4か所のいずれにおいても、1年次に供与した資機材(31種114品)は、保健医療サービス提供のために適切に使用・管理されていることを確認することができた。なお、12月のモニタリング時には郡レベル行政職員も同行するなど、保健行政側の積極的な関与も確認された。</p> <p><u>1-2. ヘルスポストスタッフの能力強化研修の開催</u> 以下の各研修を、ヘルスポストスタッフに対して実施した。</p> <p>①家族計画とカウンセリング研修 実施日程: (1) 2021年7月30日～8月6日、(2) 8月5日～12日 参加者: (1) 4人、(2) 4人、計8人</p>

研修前後のテスト平均正答率：61% → 98%

②「コミュニケーション（患者フレンドリーな対応法）」

実施日程：(1) 2021年10月3日～4日、(2) 10月5日～6日、(3) 10月8日～9日

参加者：(1) 16人、(2) 15人、(3) 16人、計47人

研修前後のテスト平均正答率：61% → 95%

なお、「出産介助（SBA）研修」は事業期間の後半に実施する予定だったが、対象者の準助産師4名が他地区へ異動となり、すでに同研修を受講済みの助産師2名が新たに着任した（残り2名は空席）ことから、研修実施は見送った。

1-3. ORC/CHU の建設

ORCは2か所（ガダワヘルスポスト管轄下のカクラハワ集落、ガンガパラスプルヘルスポスト管轄下のカバリクティ集落）、CHUは2か所（ゴバルディヤヘルスポスト管轄下のゴバルディハ集落とマハデワ集落）、それぞれ予定通り建設を完了した。これにより、2～3年次にわたり、ガダワ地区内にORC、及びCHUが各4か所整備された（「別添1地図」参照）。

1-4. ORC/CHU への資機材供与

活動1-3で建設した4か所のORC/CHUに対し、計36種207品（ORC2か所：26種81品、CHU2か所：34種126品）の資機材を供与した（内訳は「別添2資機材」参照）。

1-5. ORC/CHU の運営支援

ORC、CHU、それぞれの運営管理委員会メンバーに対し、以下のとおりオリエンテーションを実施した。

【ORC 運営管理委員会対象：1日間】

- ① ムシナカ集落 ORC（2年次建設）
日時：2021年3月16日、参加者数：7名
- ② カバリナカ集落 ORC（2年次建設）
日時：2021年3月17日、参加者数：8名
- ③ カクラハワ集落 ORC（3年次建設）
日時：2022年2月9日、参加者数：8名
- ④ カバリクティ集落 ORC（3年次建設）
日時：2022年2月19日、参加者数：6名

【CHU 運営管理委員会対象：2日間】

- ① チムチメ集落 CHU（2年次建設）
日時：2021年7月28日～29日、参加者数：9名
- ② カラカテ集落 CHU（2年次建設）
日時：2021年8月16日～17日、参加者数：8名
- ③ ペルセニ集落 CHU（既存のもの）
日時：2021年8月13日～14日、参加者数：10名
- ④ チャンダンプル CHU（既存のもの）
日時：2021年9月15日～16日、参加者数：10名
- ⑤ ゴバルディハ集落 CHU（3年次建設）
日時：2022年1月11日～12日、参加者数：10名
- ⑥ マハデワ集落 CHU（3年次建設）
日時：2022年1月20日～21日、参加者数：10名

いずれのオリエンテーションも、ガダワ地区保健課の担当官と事業スタッフがファシリテーション役を務め、ORC/CHUが提供するサービス、運営管理委員会メンバーの責任などについての理解を促した。また、メンバーが中心となり、現状に基づいた課題分析を行い、同課題の解決に取り組む年間活動計画を策定した。

1-6. FCHV 能力強化研修の開催

ガダワ地区内で活動するFCHVを対象とする2日間のワークショップを、以下のとおり実施した。1～2年次に行った研修内容の定着と、日々の活動の振り返りを目的としたもので、対象全FCHV83名中、79名が参加した。

- ① ガダワヘルスポスト（以下、HP）管轄
日時：2021年12月28日～29日、参加者：21名
- ② ガンガパラスプルHP管轄
日時：2021年12月30日～31日、参加者：19名
- ③ ゴバルディヤHP管轄
日時：2022年1月1日～2日、参加者29名
- ④ コイラバスHP管轄
2022年1月3日～4日、参加者：10名

ワークショップのファシリテーション役は、ガダワ地区保健課の担当官、事業スタッフ、各区HP責任者が務めた。ワークショップの前後に実施した理解度テストの結果は、全体で平均80%から89%への向上が確認された。

また、事業終了後もFCHVの活動が効果的に継続されるよう、ボランティアキット（フリップチャート、ARIタイマー¹、はさみ、水筒、撥水ジャケット、バッグ）を配布した。

1-7. リプロダクティブ・ヘルスキャンプの開催

事業対象地の女性（主に15～49歳）と乳幼児を対象としたヘルスキャンプを、以下のとおり開催した。実施にあたっては、ルパンデヒ郡プトワル市にあるシッダールタ母子専門病院の技術協力を得た。

- ① 2021年12月18日（ガダワHP）：受診者377名
- ② 2022年2月26日（ゴバルディヤHP）：受診者337名

2回の参加者合計714名の内、535名が婦人科、179名が小児科を受診した。

婦人科受診者の内、症例として多かったのは、骨盤内感染症、月経不順、不正出血、下腹部痛などだったが、他にも子宮脱や不妊相談など幅広い症例に対応し、女性の健康面はもちろん、精神的なケアの面でも貢献することができた。受診した女性からは、「気にはなっていたけど病院に行くほどでもない、と思ってそのままにしていた症状を、無料で、家の近くで診てもらえて助かった。女性の医師に対応してもらえたのも嬉しかった」との声が聞かれた。

なお、キャンプ会場ではFCHVが中心となり、地域住民の健康希求行動改善に向けた啓発活動も行われた。

2. 地域住民の母子保健知識向上

2-1. 母子保健啓発活動

実施した活動は以下のとおり。

活動	内容
①母親グループ月例ミーティングでのワークショップ	ガダワ地区で活動している83の母親グループの月例ミーティングにおいて、本事業スタッフのサポートのもと、FCHVによる母子保健ワークショップが349回行われ、延べ4,065名のメンバーが参加した。
②妊婦対象ワークショップ	妊婦とその家族を対象としたワークショップを74回開催した。ワークショップに参加する妊婦には、家族の誰かと必ず一緒に参加するよう促し、同行した夫や姑、義姉などに対しても、妊婦を支える家族として周産期のサポートに対する理解を深めるよう工夫した結果、計460名の妊婦と414名の家族（その内89名が夫）が参加した。ワークショップの前後に行った理解度テストでは、正答率が平均46.8%から97.9%に向上した。また、参加時に妊婦健診を未受診だった妊婦221名が、公的保健医療施設で健診を受診した。
③妊婦フォローアップ	妊婦がいる656世帯の家庭を訪問し、適切なタイミングでの妊婦健診受診の促進や、健康状態の確認を行った。行動制限期間中は、284名の妊婦に対して電話でフォローアップを行うなどの工夫をした。
④ORCでのレクチャー	公的保健医療施設によるORCサービスや小児予防接種サービスの実施日にあわせ、同じ会場で計81回の保健啓発レクチャーを開催した。講師は事業スタッフが務め、ORCを訪れていた母親など延べ2,241人が参加した。

¹ 乳幼児の呼吸数を計るタイマー

	<p>⑤国際・国内記念日イベント</p>	<p>事業期間中、以下の各記念日に啓発イベントを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界健康デー（2021年4月7日） ・ 世界母乳育児週間（2021年8月1日～7日） ・ 家族計画の日（2021年9月18日） ・ FCHVの日（2021年12月5日） <p>地区保健行政、各区保健施設との共同で、イベントの趣旨に応じた啓発活動、クイズコンテスト、メッセージラリーなどを実施した。年齢や性別を問わず、幅広い層に対して正しい知識の普及と行動変容に関する呼びかけを行った。</p>
	<p>⑥ラジオ</p>	<p>地元ラジオ局と協力し、本事業の活動や関係者インタビューを内容に盛り込んだ1回30分の番組を、計37回放送した（再放送を含む。番組数は20回）。母子保健知識に関するクイズコーナーを設け、リスナーが電話やSMSで回答に参加できるようにしたところ、計242人が参加した。</p> <p>また、事業スタッフが監修した4種類のジングル（短い啓発メッセージ）をネパール語及び地元の言語（タルー語）で毎日10回流し、予防接種や妊娠中の危険兆候などについての啓発を行った。</p>
	<p>⑦新聞</p>	<p>2021年4月から2022年2月の間、事業対象地域で広く読まれている地方新聞（Naya Yugbodh National Daily、発行部数：10,000部/日）に週1回、周産期ケアに係る広告を掲載した（計3種類）。</p>
	<p>⑧青少年対象オリエンテーション</p>	<p>ガダワ地区にある公立学校6校に在籍する9年生、10年生（日本の中学3年生、高校1年生に相当）を対象としたオリエンテーションを11回実施し、計776名（女子生徒529名、男子生徒247名）が参加した。テーマには「思春期の性」、「月経と妊娠」、「若年妊娠のリスク」、「避妊と安全な妊娠」などを取り上げた。オリエンテーションの前後に実施した理解度テストでは、正答率が平均46%から89%に向上した。</p>
<p>2-2. 啓発ツールの作成と配布 事業期間中に、作成・配布を行った啓発ツールは以下のとおり。</p> <p>①パンフレット 公的保健医療サービスの内容を紹介するパンフレットを作成し、3年次に建設したCHU/ORCの対象集落に住む約3,500世帯に配布した。</p> <p>②ハンドブック（フリップチャート） 事業が実施した研修内容に基づいたハンドブックを作成し、83名の全FCHV、各公的保健医療施設、ならびに各母親グループ（83集落）に対して配布した。</p> <p>③成果集（カレンダー） 3年間の活動内容を写真とコメントなどで振り返る成果集をカレンダーの形で作成し、母親グループメンバー約2,500名、及び関係機関職員など約200名に配布した。</p> <p>④ドキュメンタリー映像 3年間の活動内容や裨益効果について、受益者や関係機関職員へのインタビューを通じて振り返るドキュメンタリー映像を作成した。同映像は、郡レベル、地区レベルで事業終了時に行った調整会議の場で共有した他、地区行政局のウェブサイトですべて公開し、地域住民が見ることができるようにした。</p>		
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>プロジェクト目標「ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する」に対する成果指標と、事業終了時点での達成度は以下のとおり。 ※確認方法：ネパール政府「保健管理情報システム」、エンドライン調査</p> <p>① 全区の第1回妊婦健診受診率が90%（1年次申請時ダン郡平均値）を超える →【一部達成】 達成区：ガダワ区（103%²）、コイラバス区（144%） 未達成区：ガンガパラスプル区（79%）、ゴバルディア区（87%）</p>	

² 指標の算出にあたっては、地区保健課が管轄区ごとに毎年設定する対象年齢人口（総人口に基づいて算出）を母数としているため、他の管

	<p>② 全区の第4回妊婦健診受診率が51.5%（1年次申請時地区平均値）を超える →【達成】 ガダワ区（101%）、ガンガパラスプル区（91%）、コイラバス区（133%）、ゴバルディヤ区（69%）</p> <p>③ 全区の妊婦鉄剤受給率が53%（1年次申請時地区平均値）を超える →【達成】 ガダワ区（97%）、ガンガパラスプル区（90%）、コイラバス区（133%）、ゴバルディヤ区（69%）</p> <p>④ 全区の予防接種（BCG）受診率が88%（1年次申請時地区平均値）を超える →【達成】 ガダワ区（116%）、ガンガパラスプル区（81%）、コイラバス区（100%）、ゴバルディヤ区（102%）</p> <p>⑤ 全区の予防接種（DPT、Hep.B、Hib3）接種率が79%（1年次申請時地区平均値）を超える →【一部達成】 達成区：コイラバス区（89%） 未達成区：ガダワ区（78%）、ゴバルディヤ区（72%）、ガンガパラスプル区（68%）</p> <p>⑥ 全区の予防接種（Measles/Rubella）接種率が78%（1年次申請時地区平均値）を超える →【達成】 ガダワ区（107%）、ガンガパラスプル区（89%）、ゴバルディヤ区（94%）、コイラバス区（133%）</p> <p>【SDGsに該当する目標における成果】 <u>目標3「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」</u> 本事業目標である、「母子の基礎保健サービスへのアクセス改善」が概ね達成されたことを通じて、SDGs目標3.8「質の高い基礎的な保健サービスや効果的なワクチンへのアクセスの改善」に大きく貢献した他、母子保健に係る公的保健医療サービスの質の向上、および地域住民への知識普及を通じて、妊産婦死亡率（目標3.1）、乳幼児死亡率の削減（目標3.2）にも貢献することができた。</p> <p><u>目標10「各国内及び各国間の不平等を是正する」</u> 事業開始当初、ガダワ地区内には、母子保健指標に大きな格差が存在していたが、活動を通じて指標が低い区に対する重点的なフォローアップを行うことで、その格差を大幅に是正することができた。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業で実施した全ての活動は、ガダワ地区、対象各区の行政政策に沿って計画されており、同政策との高い整合性を保つことにより、事業成果の持続発展性を担保している。 ・ 事業で建設した公的保健施設への職員配置、ならびに建物や資機材の維持管理についての経費は、地区行政予算によって経常的に確保されており、運営が滞ることはない。 ・ ヘルスポストスタッフの約半数、ならびにFCHVは地元人材のため、本事業を通じて得た知識・技術は、今後も日々の業務・活動で活かされ、結果的に地域住民、特に母子の健康改善に寄与し続けることが期待できる。FCHVについては、本事業で作成した啓発ツールやボランティアキットが、自主的な活動継続の後押しにもなっている。